

グッドモーニング、三島

19世紀のボストンに生まれた ラルフ・ワルド・エマーソン (Ralph Waldo Emerson) は、詩人、随筆家、また哲学者として世に影響を与えました。1836年に出版された彼の著書「Nature」では、日々の慌ただしさからひと休みするために自然の中を散歩することの必要性を語っています。学生だった私は科学や社会学の教科書を読まなければならなかったため、この本はとても良い気晴らしになる清涼剤でした。そしてこの本に書かれているメッセージは、私が年を重ねていくにつれてもっと実感できるのだろうと、当時感じていました。

昔から私は何か発見できるかもしれないと期待しながら、ただあてもなく歩くのが大好きでした。日本に来て間もないころ、毎日午後に静岡県東部地域の、あらゆる道という道を探索したものです。戸田から原、静浦から下田まで…。探索することによって、街と自分の新しい住まいとのつながりや関係が深まっていくように感じていました。

昨年秋、自分の散歩時間を午後から早朝に変えたことがあります。すると箱根の後ろからちょうど太陽が昇り始めたとき、三島の別の一面を見ることができました。夜が明けていく間、桜川や源兵衛川から霧が立ちこめ、見慣れたはずの街の風景はまるで別世界。見上げた空はタペストリーのように様々な色を織りなし、また足元の影は新たな目的地を向いています。時間の都合さえつけば、一日中歩き続けていたことでしょう！

その時、私は昔読んだエマーソンの言葉の意味を理解したのです。
『人は、朝は全身で歩くが、夕方は足だけで歩く』

ありがとう、エマーソン。そしてありがとう、三島。
また朝に会いましょう。



桜川

カンボジアで就学・就労支援 《三島出身の内田さんが市長に活動報告》

三島市出身で、カンボジア農村部のリエンポン村で就学と就労を軸に支援活動を行っている内田隆太さんが一時帰国し、その活動報告のために2月1日、豊岡武士市長を訪問しました。

内田さんは1992年生まれ、東京都市大学2年の時にカンボジアを初めて訪れ、卒業後カンボジアに移住、子どもたちが教育の機会を少しでも多く持てるようにと、村に小学校を設立しました。さらには学校の敷地内に工房を建設し、若い母親や進学を断念した未婚の女性の縫製技術の習得や就労の機会を作つての自立支援を行っています。子どもたちの就学、若い女性の就労を支えるには、村全体の生活向上が必要です。最近では、人材の育成を含め、村人の生業である農業支援にも着手しました。

今回、2018年から内田さんの活動をサポートしているせせらぎ三島ロータリークラブの役員の方々も同席されましたが、同会は、電動ミシン、文房具、サッカーボールなどを寄贈して内田さんを支援しています。また同会の支援で、2020年には小学校に地下50メートルの井戸を設置、安心して飲める水を供給できるようになりました。

「子ども達だれもが学校に通える暮らしを、村の就労支援を通して実現する」ことを目標に、カンボジアで頑張っている内田隆太さんの活動が、現地で根付き着実に成果を上げることができるように応援したいと思います。



麦畠 (編集後記)

- ★Walking, and laughter, really are the best medicine.
- ★非常時も変わらずコツコツ学び積み上げる人、尊敬！
- ★一向に収まらないコロナ、それでも今年も桜咲く！
- ★マスク顔、久しぶりに外したら、みんなすっかり老け顔に
- ★Through every dark night, there's a bright day.

(J)

(桜)

(S)

(明)

(y)

申込み・問合せ

- ★三島市国際交流協会 (MIRA) 事務局
TEL 976-1020 FAX 976-1021
- ★三島市国際交流室
TEL 983-2645
三島市中央町5-5三島市役所中央町別館



▲ホームページ